みどりの
ニュースレター
21世紀 地球を、地域を、生活を、
持続可能な豊かさに
9
2008
No.184

特集：
今、伝えたいリサイクル・ごみ問題の疑問

ペットボトルは、リサイクルなどせず、燃やすべき？
レジ袋の削減は、かえって環境負荷を増す？

これらの主張に対して「何か変だぞ」と感じつつ、
どこがどのように「変」か、うまく説明が思いつかない人、
まわりに影響を受けた人がいて、
活動が進まなくなった……。

そんな、悶々とした思いを感じている人！
ぜひ今回の特集をご覧下さい。

本格手折り　このニュースレターはボランティアの手で折られ発送しています。

特定非営利活動法人
環境市民
Citizens Environmental Foundation - since 1992 -
http://www.kankyoshimin.org

¥200
収益の一部は環境市民の活動資金として使わせていただきます。なお、会員には毎月無料配布しています。

本誌は古紙配合率を表すR100マークははずしています。国内大手製紙メーカーによる、これまでの古紙配合率偽装に強く抗議します。

みどりのニュースレター

No.184
2008年9月号

index

コレため！
チャレンジ！　eco 検定
…02

特集：今、伝えたいリサイクル・ごみ問題の疑問
…03-08

行事案内
…09

とれたて！ 環境市民
環境首都コンテストのヒアリングに
韓国の持続可能発展委員会が環境市民を訪問
…10

予告　野外イベント運営スキルアップ講座 他
コレため番外編
海の宝石を手のひらに☆
…11

地球のなかま
第 30 回　ジュゴン―― 悲しい運命（さだめ）の人魚
…12

青き星 碧い風
第 20 回　現在の「豊かさ」が生んだ環境問題（2）
…13

読者交流コーナー みどりのかわらばん
…14

1/ 環境市民
自然素材の住まいづくりをすすめる
藤井 千穂さん
…15

次号予告 みどりのニュースレター No.185 2008年10月号 現在編集中！

特集：地域から自然エネルギーを広げていこう（仮）

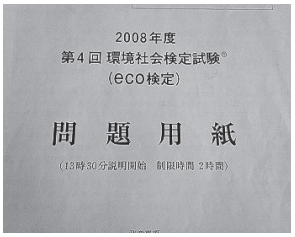
今年６月の「福田ビジョン」で、ようやく首相が自然エネルギーについて言及しましたが、その具体的な施策を待っていては普及には遠いでしょう。普及の仕組みを考え、実践している自治体の取り組みやまち全体で考える省エネを事例として取り上げ、エネルギーの地産地消を考えます。

コレため！

コレ、ためしてみました。

毎月エコロジカルなライフスタイル・グッズを
スタッフが体をはって実践レポートします！

File 38　チャレンジ！　eco 検定



「漢字検定」、「英語検定」など、よく知られているものから「ご当地検定」という少しかわったものまで、世の中ちょっとした資格検定ブーム。そんな中、環境に関しても「eco 検定」という資格試験があるということを知人から聞き、今回チャレンジしてみることにしました！　まず「eco 検定」とは、東京商工会議所が 2006 年から毎年 7 月と 12 月の計 2 回実施している環境社会検定試験で、環境に対する幅広い知識をもつことで、率先して環境問題に取り組む人づくりを目指しています。また出題形式は、マークシート方式による選択問題で、100 点満点中、70 点以上を合格としています。今まで過去 3 回実施され、約 27,500 人が「エコピープル」（合格者）として各方面で活躍しています。

さっそく試験対策として、公式テキストを購入したのですが、ページ数が A4 版で 230 ページ近くあり、また内容も「地球温暖化」、「ごみ問題」、「公害」、「食」と多種多様にわたっていて、あらためて環境問題の幅の広さに驚きました。その幅広い量に苦悩しながらの猛勉強（?）の末、いよいよ試験日当日を迎えました。

試験会場は、市内の大学のキャンパス。会場に着いて、受験者の顔ぶれを見てみると学生から年配の方まで老若男女おられ、また受験者の数も多くて環境問題に対する関心の高さを身をもって感じました。そして肝心の試験はというと、ど忘れしてしまったところがあったり、勘違いしてしまった所があったりと、やや消化不良の形となってしまったことが残念だったのですが、なんとか合格していればと思っています。

試験結果は 9 月上旬で、この号が手元に届くころには、合否が出ます。さてさてどうなることでしょう。ちなみに次回は、12 月の実施です。ぜひみなさんもいちどチャレンジされてみてはいかがでしょうか。

（文 / ニュースレター編集部　角出 貴彦）

東京商工会議所のウェブサイト：http:/www.kentei.org/

特集：今、伝えたいリサイクル・ごみ問題の疑問

「ペットボトルをリサイクルすれば、かえって環境負荷が増す。資源節約にもならない。焼却した方がむしろ環境にやさしい」という主張があります。それに対して「ペットボトルのリサイクルは資源節約になり環境にやさしい。進めた方がよい」という反論もあります。

また、「レジ袋は、もともとプラスチックのなかでも使い道がなく焼却されていた成分を用いて作られているので、レジ袋の使用はむしろ環境によい」などの主張もあります。

この種の議論は、「何か変だぞ」と思いつつ、細かなデータや難しい化学物質名などが出てくることが多く、「わかりにくい」と思われている人も多いと思います。

今回の特集は、「何か変だぞ」と思われる人の「何か」を明らかにしたいと思います。そろそろ、こういった論争の先に進まないといけませんから。

（文/環境市民 事務局長　堀 孝弘）

「何か変だぞ」の感性を大切に

■「燃やす方がよい」とは、どんなこと

言うまでもなく、空きペットボトルを回収しリサイクルするためには、使用後の洗浄、分別収集、中間処理施設での異物混入チェックやプレス、保管、再生工場への移送、再生工場での様々な工程など、多くの手間やエネルギーが必要です。「リサイクルに必要なエネルギーは、リサイクルによって再利用できる石油資源より3倍以上も多く、リサイクルなどせず燃やした方が、資源消費が少ない」という主張があります。

最近、こういった主張でベストセラーとなった本がありました。しかし、データの読み間違いなどの指摘※1だけでなく、データの謝った引用に対して、「データ捏造」※2といった抗議や謝罪要求※3も出されています。ここでは、そのような指摘の紹介にとどめ、細かい数値の検証などは避けます。「燃やして済ます」「リサイクル推進」、それぞれに問題があり、以降、それらを明らかにしていきます。

■熱エネルギーを回収するサーマルリサイクル

「燃やして済ます」のではなく、焼却時の熱をエネルギーとして回収する「サーマルリサイクル」※4や、焼却熱を利用した「ごみ発電」と比べた場合はどうでしょうか。

ごみ発電は、発電効率（熱エネルギーを電気エネルギーに転換できる率）が10～15%といわれていて、一般的な発電所の35～40%と比べて決して高くありません。ごみは水分を多く含むため、焼却しても高温の蒸気が得にくいからです。そのため、天然ガスで蒸気を加温して発電効率を高めた「スーパーごみ発電」というものも開発されています。

ペットボトルの場合は、資源有効利用促進法に基づき、材質表示が義務付けられています※5。排出者の努力で分別が可能ですが、もし分別収集をやめたなら、手間は格段に少なくなり、コスト節約にはなることでしょう。

スーパーごみ発電に対しては、「わざわざ蒸気の

加温までしなくても……」とは思いますが、分別をしなくてもよいのなら、「サーマルリサイクルやごみ発電でもいいんじゃないの」と思う人もあることでしょう。ですが、ここで納得せずに、次に読み進んでください。

■「燃やす方がよい」となったら社会はどうなる

もし仮に、「リサイクルするより、ごみはなんでも燃やして、熱エネルギーを回収」という方向に進んだとします。ごみ処理の手間だけを見れば、格段に少なくなります。さらに、焼却場での熱エネルギーの回収やごみ発電も普及し、エネルギーの供給源としてなくてはならないものになったとします。

一見よいことのようですが、そうなると、焼却施設はより多くのごみを必要とするようになります。市町村も「ごみ減量」を住民に求めなくなり、使い捨て社会に問題意識をもつ人は少なくなることでしょう。製品メーカーは商品の見栄えをよくしようと過剰包装も増え、結果として、今よりごみの多い、つまりムダなものが多くつくられる社会に進んでいくことでしょう。

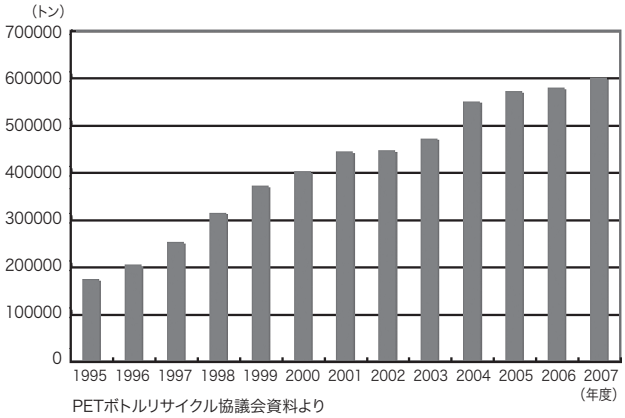
■目的は社会全体の環境負荷を下げること

図１は、最近 10 数年のペットボトル消費量の伸びを表しています。わずか 10 年で消費量は倍増しています。このグラフは「本数」ではなく「ボトル生産に使われた樹脂の重量」をあらわしています。一本当りペットボトルは年々軽量化されていますので、本数はグラフ以上に伸びています。燃やして済ませば、前述のように、今後も野放途に増えていくことでしょう。

視点を変えると、「リサイクルか燃やすか」のどちらの主張も、目的とするところは社会全体の環境負荷を少なくすることのはずです。ここで「３Ｒの原則」を思い出してください。（ページ下のコラム参照）3R の原則は、リサイクルや焼却より、リデュース（発生そのものを減らす）やリユース（再使用できる容器の利用を広める）を高く位置づけています。「リサイクルか燃やすか」は、どちらも「出たごみの処理」の話です。ペットボトルの消費量が増え続けているなか、消費やモノづくりのあり方などを考えず、「出たごみをどのように処理するか」ばかり議論していても、先ほど記した「目的（社会全体の環境負荷を少なくする）」に近づくことはできません。

「何か変」と感じた人は、議論が大事なところからズレていることを、直感的に気づいてらっしゃるのです。その感性を大事にしてください。

図1　ペット樹脂消費量



PETボトルリサイクル協議会資料より

コラム　「3R」の確認

「３Ｒ」とは、以下の３つのＲからはじまる言葉の頭文字を集めた言葉です。

- **Reduce（減量・リデュース）**　ごみの発生量そのものを減らす（発生抑制）。
- **Reuse（再使用・リユース）**　簡単な修理や洗浄をして何度も使う。
- **Recycle（再利用・リサイクル）**　原料資源として再利用する[※6]。

このいずれもできなければ、安全に処理・処分する。

……３Ｒは、上ほど優先順位が高く位置づけられています。これは、国際的な認識になっていて、日本でも循環型社会形成基本法第７条で、「ごみ処理の優先順位」として、リサイクルより、リデュースやリユースの優先順位が高く位置づけられています[※7]

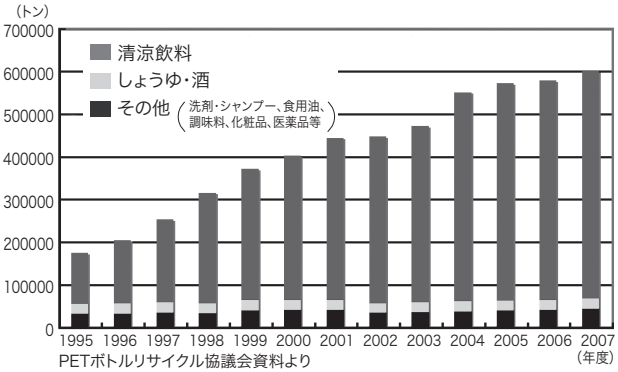
ペットボトル商品の増加と消費者の責任

■ペットボトル商品で増えているのは何

「目的」に近づくには、ペットボトルを含む容器包装ごみの発生量そのものをいかに減らすか、そのための社会の仕組みとして何が必要か、消費やモノづくりのあり方、そこでの企業の環境責任について考え、リデュースやリユースを広めることを考えないといけません。

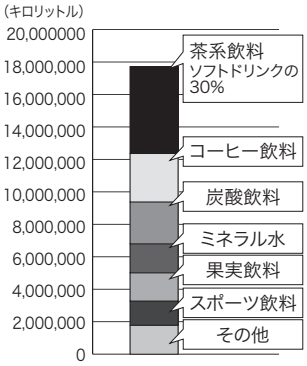
それを考えるため、ペットボトル商品のなかで、何が増えているのか、どのように増えてきたか、ふりかえりましょう。図２を見てもらうと、増えているのはすべて清涼飲料であることがわかります。ペットボトルで供給される清涼飲料のなかで割合が高いのは、茶系飲料とミネラルウォーターですが、茶系飲料のなかで最近増えているのは緑茶飲料だけなのです。

図2　ペット樹脂消費量（内訳入り）



PETボトルリサイクル協議会資料より

図3　清涼飲料の内訳



全清涼飲料の60％以上がペットボトルで販売されている。
茶系飲料540万ℓのうち、緑茶が240万ℓで最大。ウーロン茶、紅茶がそれぞれ90万ℓ。近年増加しているのは緑茶のみ。緑茶とミネラルウォーターはペットボトルでの販売が多い。

2006年度
社団法人全国清涼飲料工業会ウェブサイトから作成

■「需要創造」が生み出す消費

一般家庭用にミネラルウォーターが販売されたのは1983年のことです。ハウス食品の「六甲のおいしい水」がそれです。緑茶飲料が缶容器ではじめて販売されたのは1985年。伊藤園の「おーい、お茶」が最初の商品です。これらが売り出された頃、多くの消費者の反応は、「どうして、お茶を100円も出して買わないといけないの！」「お金を出して水を買うなんて……」というものでした。しかし、その後、毎日のように、缶やペットボトルに入った水やお茶のおいしさを強調したテレビCMや、雑誌広告などを目にするようになり、いつしか、「水やお茶は、缶やペットボトルに入ったものを買うのが当り前」という意識が広まりました。この経緯を思い出すと、消費者側から「このような商品が欲しい」という要求（必要）によって生まれ広まった商品ではなく、企業の「需要創造」によって、社会に広まった商品であることは明らかです。

■お茶や水を得るさまざまな代替方法

ペットボトル商品のなかで、割合の高いもの、また、消費が増えているものは緑茶とミネラルウォーターです。これらを「すでに必需品」と思い込んでいる人も多くいますが、お茶や水は、「家で沸かしてつくる」「水道水を炭などでろ過しておいしくする」などの代替手段があり、ペットボトル商品でなければ入手できないものではありません。

容器にしても、一度しか使わないペットボトルや缶容器ではなく、回収して何度も使う「リユース（リターナブル）容器」の使用[※8]や、最近スーパーの店頭などで見られるようになったミネラルウォーターの給水機（販売機）での提供などもあります。

また、「のどの渇きをいやす」ということで考えれば、ペットボトルに入ったお茶や水に頼らなくても、「季節の果物」の利用などで満たすこともできます。

■今後も出てくる需要創造とのつきあい方

企業にとって、「自社製品を少しでも多く買ってほしい」という要求は、当然のことですし、「需要創造」そのものも悪いことではありません。しかし、消費者がそれに乗せられっぱなしではいけません。環境や将来世代への影響などを考えた商品やサービスの選択、つまり「グリーン購入」が大切です。

環境などへの影響も考えて、商品選択をする消費者を「グリーンコンシューマー」と呼び、環境市民は1992年の設立以前（前身団体含む）から、グリーン購入の考えの普及や、グリーンコンシューマーの拡大に努めてきました。多くの団体等の働きかけもあり、最近の企業は、社会責任（CSR）が強く求められるようになりました。しかし、それだけでなく、消費者にも「グリーン購入」の実践など、自らの消費のあり方が将来世代に与える影響を考える姿勢も必要です。

現在の容器包装リサイクルの問題

■リサイクル費用負担の不公平さ

ペットボトルに限らず、日本の容器包装リサイクルは、地域住民が排出した空き容器の回収から、再生業者への引渡までが市区町村（以下、自治体）の役割になっています。再生業者が効率よくリサイクルできるよう、住民への分別排出の啓発や異物混入チェックなども自治体の役割に含まれます。これらはとても手間の多い作業であり、自治体に大きな負担を強いています。

自治体が税金を使って、収集その他、リサイクルの段取りをしているということは、ペットボトルや缶容器を多く使う人だけでなく、あまり使わない人も同じように税負担をさせられているわけです。一方、アルミ缶やスチール缶、紙パックなどは、容器メーカーや製品メーカーにリサイクル責任が（事実上）発生しません。ペットボトルの生産者責任も年々軽くなり、数年以内に「なし」になりそうな勢いです[※9]。

■自治体のコスト負担の大きさ

日本の容器包装リサイクルは、自治体が大きな負担を負っていると述ましたが、実際どれほどになるのでしょうか。

2002 年「容器包装リサイクル法の改正を求めるごみ研究会」が提案した「廃棄物会計」に基づき、「びん再使用ネットワーク（同研究会の主要メンバー）」が全国の自治体を対象に調査した「廃棄物会計分析報告書」があります。その 2003 年度版[※10] では、154 の自治体（域内人口 3,464 万人）から寄せられた回答をもとに、ペットボトルの 1 トン当りリサイクル費用を 18 万円強と算出しています。500ml容器1本当りで換算すると4.7円。うち 74% が収集した自治体の負担になっています（再生原料としての売却益は差し引いて計算）。

一般家庭ごみの処理費用が大都市の場合、1 トン当り 5～6 万円です。ペットボトルは軽くて収集効率が悪く、かなり大きな金額を必要としていることがわかります。

■リサイクルは「目的」ではない

この調査が実施された 2003 年度以降、ペットボトルの事業者負担は大幅に下げられています[※11]。消費が増えれば、回収量も増え回収効率も高まります。さらには、リサイクル品の利用方法や販路が広がれば、リサイクルに必要な費用も少なくなります。リサイクル委託金を少なくできるのですから、「燃やさなければどうしようもない」という状況でないのは明らかです。しかし、リサイクル効率さえ向上すればよいというものではありません。

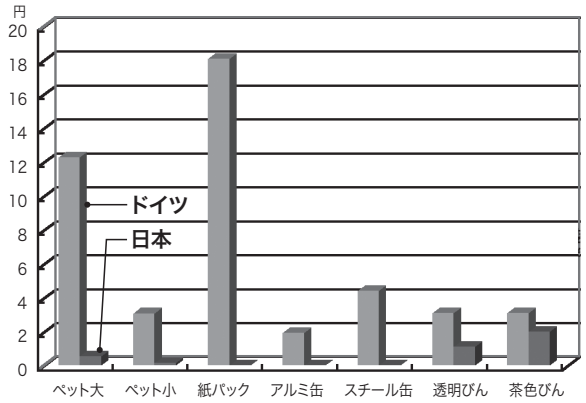
世界で最初に容器包装リサイクルの費用負担を生産者に求めたドイツの場合、缶やペットボトルをはじめとした使い捨て（ワンウェイ）容器のリサイクル委託金を高くすることで、容器の軽量化や素材の単純化、さらにはリユース容器の維持に役立てようとしました。つまり、リサイクル負担を重くすることで、リサイクルをごみ減量の促す「手段」として用いたのです。ところが日本の場合、大量にリサイクルすることが「目的」になっています。その考えの違いが委託金の差に現れています。

表1　容器間リサイクル費用比較

	1トン当りリサイクル費用(円)	回答自治体数	自治体負担率(%)	500ml容器1本当りリサイクル費用(円)	500ml容器1本当り重量(g)
PETボトル	181,272	129	73.9	4.7	26
スチール缶	91,185	137	—	3.9	43
アルミ缶	68,849	137	—	1.0	15
ガラス/無色	59,117	130	96.2	11.5	195
ガラス/茶	69,630	131	91.4	11.8	195
ガラス/その他	84,515	130	90.8	16.5	195
その他/プラ	168,383	68	68.9	3.0	18
その他/紙容器	36,435	16	59.1		

出典：2003事業年度　廃棄物会計分析報告書　びん再使用ネットワークより
注）アルミ缶、スチール缶は事業者負担が事実上発生しない

図4　ワンウェイ容器1本あたり日独リサイクル委託金比較



ドイツ/2005年1月以降DSD社資料より
日　本/2006年度（財）日本容器包装リサイクル協会資料より

今世紀なかばに世界のCO_2半減！これから必要なこと

■大量リサイクルの「循環型社会」では、CO_2半減は無理

地球温暖化による被害を最小限度にとどめるには、気温上昇を産業革命以前に比べて2℃以内にとどめないといけないと言われています。そのためには、今世紀なかばの世界のCO_2排出量を、1990年を基準として半減させる必要があると言われています※12。

缶やペットボトルなどの使い捨て容器の大量消費をそのままに、使用後の空き容器の大量リサイクルを進めた「循環型社会」が実現したら、「CO_2半減社会」に近づくことができるのでしょうか。表2は、「容器包装リサイクル法の改定を求めるごみ研究会」が人口約20万人のモデル都市を想定して、飲料容器のすべてをリユース（リターナブル）容器に置き換えた場合、大量リサイクルを進めた社会と比べて、CO_2発生量や処理費用などがどれだけ削減できるか試算したものです。この差を見てもらうと、CO_2半減社会は、リユースを重視した社会でなければ、到底実現できないことがわかります。

表2　すべての飲料容器がリターナブル容器になった場合の費用
（人口20万人弱のモデル都市を想定した試算）

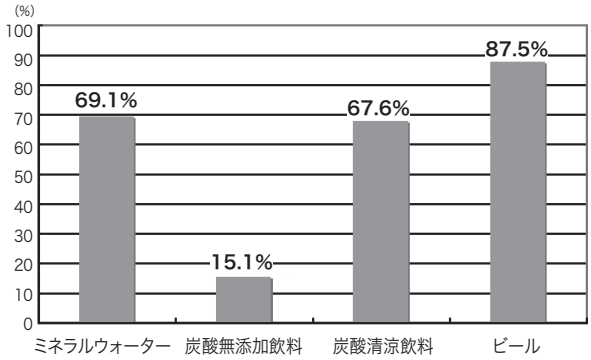
	ごみ処理費用	再資源化費用	固形廃棄物	CO_2発生量
リサイクル中心の社会(A)	7,181万円	2億2,960万円	2,393t	11,487t
すべてリユース容器にした社会(B)	2,872万円	1億0,640万円	2,114t	5,525t
(A)に対する(B)の削減量	4,309万円	1億2,320万円	279t	5,962t
(A)に対する(B)の削減率	60.0%	53.7%	11.7%	51.9%

出典：「育てよう　廃棄物会計」容器包装リサイクル法の改定を求めるごみ研究会・編　日報出版刊　2003
注）飲料容器の処理・リサイクルに係る費用のみ対象

■環境先進国と呼ばれる国は、リユース中心社会

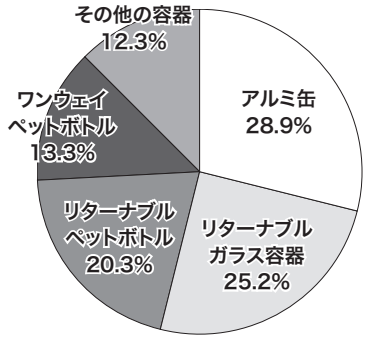
日本では、ビール以外の飲料をリユース容器で購入するのは、かなり難しくなりました。しかし、「リユース容器なんて、昔のもの」と思うのは早計です。ドイツやスウェーデン、デンマークといった環境先進国と形容される国では、かなりの割合の飲料が、リユース容器で販売されています。ペットボトルにも1回しか使わないワンウェイではなく、回収して何度も使う「リユースペットボトル」もあります。リユースペットボトルは20～30回再使用されます。

図5　ドイツ飲料リユース容器市場占有率　（2004年 ただし1月～7月まで）



連邦政府の委託による包装市場調査有限会社（GVM）より、環境市民 堀 孝弘 作表

図6　スウェーデン飲料リユース容器市場占有率



出典:Returpack社資料（2003年）より、環境市民　堀 孝弘作表

■「出たごみの処理」より大切な議論

環境市民は、これまで日本の容器包装リサイクルの問題を幾度となく提起してきました※13。しかし、「燃やすべき」「リサイクル推進」のどちらの主張もしていません。それには、以下の理由があります。

- **出たごみの処理より、ごみが多く排出される社会から考えないといけない。**
- **リサイクルは「目的」ではなく、ごみの発生を抑制するための「手段」としての活用を考えないといけない。**
- **現在の容器包装リサイクルには、負担のあり方等、改善すべき問題が多い。**

つまり、「燃やすべきか、リサイクルすべきか」といった末端処理の議論より、もっと大事なことがあるのです。

■そろそろ、社会の作り替えの議論を

大量生産・大量消費型社会を、もう少し詳しく表現すると、まず「需要創造」を出発点に、大量生産、長距離移送、大量宣伝、大量販売、衝動購入、短時間大量消費の社会であると言えます。このような社会が永続できないのが明らかだとしても、最後の部分だけ、大量廃棄（焼却を含む）を大量リサイクルに変えても、「環境にやさしい社会」とは言えません。

将来世代が安心して暮らせる社会を考えるならば、「必要」を出発点に、適地適量生産、近距離移送、グリーン購入、適量消費・長期間使用、リユース優先・最少廃棄社会に転換していく必要があります。そのための知恵は、学識者や政治家だけでなく、生活者の暮らし目線から引き出すべきものが多くあります。また、「技術科」「理科」だけでなく、「社会科」「家庭科」の知恵もおおいに引き出さないといけません。

コラム　レジ袋の削減への異説について

レジ袋は、もともとプラスチックのなかでも使い道がなく焼却されていた成分を用いて作られている。逆にマイバッグは質の高いプラスチックを使っている。
レジ袋の使用は環境によくて、マイバッグの利用を広めることは、むしろ環境によくない。

……などの主張に対して

本来「マイバッグ持参」ではなく「レジ袋削減運動」だったはずです。街頭でやたらと袋を無料配布することが多くなり、上記のような誤解が生まれたのでしょう。マイバッグなどプラスチック製である必要はなく、まして、レジ袋と同数のマイバックに置き換える運動でもありません。それこそレジ袋の使いまわしで十分です。

すぐごみになり、身近に代替手段のあるレジ袋の削減を通じて、あまりにも増えた包装材の削減を考えるきっかけになればよいのです。なので、レジ袋撲滅運動でもありません。「他に用途のないプラスチックの使い道になっている」としても、「だから使い続けよう」は論外。プラスチック消費のあり方そのものを考えないといけません。これらは、生活者感覚で考えれば、すぐにわかることです。さぁ、もう先に進みましょう。

注釈）

※1　http://www.yasuienv.net/PetRecycle2007.htm
最新ペットボトルのリサイクル　市民のための環境学ガイド「“環境問題のウソ”のウソ」楽工社　山本弘　2008　など

※2　http://www.petbottle-rec.gr.jp/syoseki/index.htm
「書籍『環境問題はなぜウソがまかり通るのか』での弊協議会データの捏造について」PET ボトルリサイクル推進協議会　ウェブサイトより

※3　http://homepage2.nifty.com/koshi-net/other/kaihou/74.htm「武田邦彦氏と洋泉社に対して謝罪を求める申し入れ書を提出しました！」古紙問題市民行動ネットワーク　ウェブサイトより

※4　他、溶かして原料として利用するマテリアルリサイクル、化学的に分解して再生するケミカルリサイクルがある。

※5　資源有効利用促進法に基づき、1993 年 6 月より（清涼飲料・しょうゆ・酒類）の PET 材質の容器に表示が義務付けられている。

※6　※4 を参照

※7　条文には「経済的、環境的に合理的な範囲で」という但し書きがあります。

※8　近年、日本ではリユース容器の利用が激減していますが、西欧では清涼飲料やビール、ミネルラルウォーターで広く使われています。

※9　日本容器包装リサイクル協会が定めた 1kg 当りペットボトル再商品化委託費用　2003 年度 64.0 円、2004 年度 48.0 円、2005 年度 31.2 円、2006 年度 9.1 円、2007 年度以降 1.8 円

※10　http://www.binnet.org/haikibutsu.html から「廃棄物会計調査報告書」がダウンロードできます。びん再使用ネットワークウェブサイトより

※11　※8 参照　（財）日本容器包装リサイクル協会への委託金は、2003 年度の 1kg 当り 64.0 円から 2008 年度は 1.8 円と、20 分の 1 以下になっています。

※12　基準年をいつにするかについて、日本政府は 2007 年を主張している。

※13　詳しくは、「みどりのニュースレター」2006 年 9 月号および 10 月号特集記事「容器包装リサイクル法の問題、前編・後編」を参照

行事案内 9月

行事についての詳細・お問い合わせは各事務局まで

環境市民
KYOTO
TEL）075-211-3521 FAX）075-211-3531
IP電話）050-3581-7492
E-mail）life@kankyoshimin.org
http://www.kankyoshimin.org/

●わいわい ウキウキ 1Dayボランティアデー

月に一度の「みどりのニュースレター」発送日。エコな話題をわいわいおしゃべりしながら、ニュースレター発送作業をします。9月30日は、エコなお買い物。CO_2もぐんと減って、しかもお得で楽しい！　エコな買い物のコツを紹介します。

と　き ：9月29日（月）午後5:30〜8:00頃まで
　　9月30日（火）午後2:00〜7:00頃まで
ところ ：環境市民 京都事務局
備　考 ：予定時間を過ぎて来られる場合は予めご一報ください。講演ではありませんので、作業をしながら話をきいたり話したりする状況になることをご了承ください。

次回発送日… 10月29日（水）午後5:30〜8:00頃まで
　　10月30日（木）午後2:00〜7:00頃まで

環境市民
滋賀事務所
SHIGA
TEL）077-522-5837
E-mail）cefshiga@kankyoshimin.org

●能登川町の街歩き

能登川町には、石馬寺、安楽寺など歴史的な寺社があります。朝鮮人街道を通って、それらを満喫します。

と　き ：9月21日（日）午前10:00から午後5:00
ところ ：能登川町（JR能登川駅集合）
参加費 ：500円（別途タクシー代400円）
申込み ：必要
締　切 ：9月14日（日）
主　催 ：龍谷大学街歩き研究会

環境市民
東海事務所
TŌKAI
TEL・FAX）052-521-0095
IP電話）050-3604-6182
E-mail）tokai@kankyoshimin.org
http://www.kankyoshimin.org/tokai

●環境デーなごや2008

COP10（生物多様性条約第10回締約国会議）・エコアジア2008（第16回アジア太平洋環境会議）が開催されます。東海事務所では「日本の環境首都コンテスト」に関するブース運営します。気軽に遊びに来てください。

と　き ：9月7日（日）　午前10:00から午後4:00
ところ ：久屋大通公園（名古屋市中区栄）
交　通 ：市営地下鉄栄駅下車徒歩5分
定　員 ：なし
参加費 ：無料
申込み ：不要
主　催 ：環境デーなごや実行委員会

●満月の森あるきin東山 環境市民ecoツアーガイド養成講座 vol.2

満月の夜の森を歩きます。昼間とは何かが違う夜の森を体感してみませんか？ 視覚から聴覚へシフトする森あるきです。満月の夜は何かが起きる！

と　き ：9月15日（月・祝）　午後6:00から8:00
ところ ：名古屋市東山の森
集合場所：市営地下鉄東山公園駅
定　員 ：10人
参加費 ：ひとり1,000円
申込み ：必要
申込先 ：東海事務所に電話、または件名を【満月の森あるきin東山 申込】としてメールで申込んでください。
補　足 ：初心者向けの森あるきです。
　　持ち物など詳細は申込者にご連絡します。

旬のぷちメモ

あなたの心に季節の窓を。
旬の話題と暮らし方のヒントをお届けします。

vol.39 秋のお彼岸

昼と夜の長さが同じ秋分の日を真ん中に前後３日ずつ、計７日間は秋のお彼岸の期間です。お彼岸にはお墓参りにいらっしゃる家庭が多いのでは。本来は西方にある極楽浄土に祈願するのがお彼岸の慣わし。秋分の日（春は春分の日）は太陽が真西に沈むために、その方角が極楽浄土のある方角と考えられていたようです。お彼岸のお供え物といえば「おはぎ」。おはぎに使うもち米はちょうど９月が収穫時期です。早ければとれたてのもち米がお彼岸の頃に手に入るのではないでしょうか。お墓参りにいらっしゃる際のお供え物には、ぜひ新鮮なもち米でおいしい手作りおはぎを。（ニュースレター編集部 / 安江 晃子）

ミーティングカレンダー

●いずれも京都事務所で行います。ぜひご参加ください。

11日（木）	電子かわら版チーム	午後7:00から
4日（木）	ニュースレター編集部	午後7:00から
22日（月）	ニュースレター編集部　校正日	午前10:30から

講演のご案内

●お近くにお越しの際はご参加ください。詳しくは京都事務所まで。

17日（水）　京都市　温暖化防止行動

環境市民がコーディネート！　市民がつくるまちづくりプランいよいよ発表！

生駒市環境基本計画　中間案発表会
～ 10 年後の「かんきょう生駒」をいっしょにつくりましょう～開催

環境市民は、2006 年度から奈良県生駒市での環境基本計画策定事業をコーディネートしています。これまで、環境基本計画策定委員会（市民と市職員で構成）では、「まち・みち」、「しぜん」、「せいかつ環境」、「エネルギー環境」の 4 つの部会に分かれ、生駒市の各分野における課題を洗い出し、それらを解決するためのプロジェクト案について議論を重ねてきました。

中間案発表会は、策定委員が考えたプロジェクト案に、より多くの市民の意見を反映させ、生駒市民が自分たちで考え、実行するまちづくり計画にブラッシュアップするために開かれます。発表会の前半では、策定委員が工夫を凝らしてプロジェクト案をわかりやすく伝え、後半では部会ごとにプロジェクトに対する意見を出し合います。ここで出された意見を踏まえて、策定委員会で再度プロジェクトが検討され、平成 20 年度末策定の環境基本計画としてまとめられます。

住民参画による環境基本計画策定に関心をお持ちの市民、自治体の方は必見です。詳細につきましては、生駒市環境政策課（電話 0743-74-1111 内線 375）にお問い合わせ下さい。

中間案発表会は、生駒市内 3 箇所で行われます。

●第 1 回
と　き：9 月 20 日（土）　午後 1:30 から 4:30
ところ：生駒市コミュニティセンター
（生駒市元町 1 丁目 6 番 12 号生駒セイセイビル内）

●第 2 回
と　き：9 月 27 日（土）　午後 1:30 から 4:30
ところ：南コミュニティセンター（生駒市小瀬町 18 番地）

●第 3 回
と　き：10 月 5 日（日）　午後 1:30 から 4:30
ところ：北コミュニティセンター（生駒市上町 1543 番地）

とれたて 環境市民

環境市民の今、そしてこれからの活動をお知らせします

講演&ディスカッション

環境首都コンテストのヒアリングに
韓国の持続可能発展委員会が環境市民を訪問

8月6日（水）午後、訪れたのは韓国大統領直属の諮問機関「持続可能発展委員会」の金銅国委員長、ソウル大学の金貴坤教授ほか、国土研究院、韓国環境政策評価研究院の研究員など8人、環境市民からは枚本育生代表、植田和弘、下村委津子両理事のほか、環境首都コンテスト全国ネットワークのメンバー、ボランティアやインターンの学生など9人、という顔ぶれ。今回の訪問の目的は、韓国での持続可能な発展の手段として、日本の環境首都コンテストの方法、成果に学ぼうというもの。

最後にみんなで記念撮影

■韓国～政策の統合化が課題

冒頭、金委員長は「韓国の行政組織はそれぞれが縦割りで統一されていない。この委員会では、政策の統合化について調査を進めている。また、日本の NGO 活動についても学びたい」と挨拶。それを受けて植田理事は「政策の統合は『生活の質』を中心コンセプトの一つとして考える必要がある。環境首都コンテストは、市民による政策の統合を促進するツールだ。また、韓国で持続可能な発展を正面に掲げた委員会ができたのは素晴らしい。このような委員会は日本にもない」と応じた。

■時間を延長して活発な意見交換

枚本代表による環境市民の活動、環境首都コンテストの目的、実施状況、成果などについてのプレゼンテーションを受けて、質疑応答に移った。韓国側からは活発な質問が出され、意見交換は当初の終了時間を延長して行われた。「環境首都コンテストを行うためのファンドの仕組みは？」「中央政府はどう評価しているのか」「コンテストの評価の基準は？」「参加する自治体にとってのメリットは？」などの質問に丁寧に回答し、質問者らは深くうなずきながら聞き入っていた。

最後に金委員長は「これまで長く大学で教えてきたが、今日ほど時間が短く感じたことはない」とユーモアを交えて挨拶。今回のお礼として、韓国の伝統工芸品「合竹扇」と日本人に人気の韓国海苔をいただいた。

■ひろがれ！　環境首都コンテストの輪

韓国の制度は日本と近く、中央政府の力が強い。特定の事業が予算とともに地方に下りていくというかたちだ。そのような中で、中央から地方へ流れるお金への評価が求められているという。ただ、各部署が縦割り構造であり、環境首都コンテストのように「環境」という枠の中で、総合的に評価を行うのは簡単ではないという。しかし、ドイツから始まったコンテストが今、日本で成果を上げ始めている。韓国にも広がっていくよう期待したい。同委員会とは今後も情報交流をしていくことを約束することができた。

（文 / 環境市民事務局 風岡 宗人）

参加募集！

野外イベントスキルアップ講座スタート！

現在、環境教育や課外活動の一環として野外をフィールドに様々なイベントが各地で行われています。地域の活動をさらに拡げていくことを目的に、野外イベント運営について学ぶ講座を全3回で開催します。

安全で楽しく満足度の高い講座をつくっていくために気をつけるポイントなど、運営スタッフの大切な役割について体験しながら一緒に学びましょう。※詳細は次号以降の【行事案内】をご参照ください。

第１回
「参加者が楽しめる雰囲気づくり」

と　き：11月2日（日）
ところ：京都御苑（予定）

当日受付からアイスブレイクまで、イベント運営の基本を学びます。

第2回
「安全で楽しいイベント運営」

と　き：11月30日（日）
ところ：環境市民こもれび小屋

山小屋に出かけ野外での事故や危険を避けるための配慮と準備について体験しながら学びます。

第3回
「満足をうみだすディレクション」

と　き：12月14日（日）
ところ：深泥池（予定）

準備作業からふりかえり・評価まで、運営スタッフとして必要なスキルの修得をめざします。

自然遊びプロジェクトチームとは？

自然の中での遊びや楽しみを伝えるための講座「子どもと遊べる大人になろう」「自然遊びマスター講座」を 2005 年度から実施。チームメンバーは、自然や野外遊びが大好き、何かを企画するのが大好きな人たち。現在、「野外イベント運営スキルアップ講座」を準備中。

新企画！「コレため」自然遊び

コレため！ 番外編

コレ、ためしてみました。

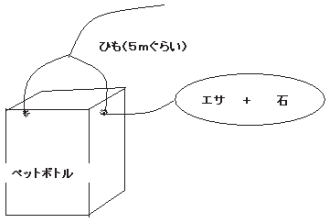
自然の中での遊び技を知りたい！でもどんな遊び方があるの？ー 読者の皆様によりいっそうの自然の魅力を伝えたいという思いから、すぐに実践できる手軽な自然遊びを紹介するコーナーが始まりました。これまでの「コレため」の番外編として隔月で掲載予定です。次回（11月）もお楽しみに！

番外編 File 1　海の宝石を手のひらに☆

みなさんはウミホタルってご存知ですか？　夜に海岸に行くと神秘的な青白いヒカリが輝いているのを見たことがある人もたくさんいると思います。今回はそんな青い宝石を手にとってみようという企画です。

ウミホタルとはカニやエビの仲間で米粒ほどの大きさです。青森県から沖縄県までの太平洋岸で水の比較的きれいな場所に一年中見られます。水深約 5 メートルの海底で活動し、昼は底の砂の中に隠れていて、夜になると泳ぎだしてエサを探す夜行性の生き物です。餌は生物の肉で生き物の死体を食べています。まずトラップを作ってみましょう。用意するのはペットボトル、ストッキング、ひも、生肉（ほんの少しで大丈夫です）。まず、ペットボトルを切り下半分を使って図のようにくみ上げたら完成。紐は取れないようにしっかりと結び付けてくださいね。

トラップを作ったら、夕暮れ以降にいよいよウミホタルを捕まえにいきます。ウミホタルは桟橋や入り組んだ湾があるような場所にたくさんいますので、そこでトラップをおろすのがいいでしょう。トラップに餌つきのストッキングを入れて海底に沈めます。うっすらとした青白いヒカリが見えたら引き上げてください。中にウミホタルが入っているはずです。たいてい 5 分から 10 分ほどあれば捕まえることができます。



トラップ作製図

トラップの中の水をかき混ぜ、捕まえたウミホタルを取り出してみましょう。そっと触れると青白く発光しているのがわかると思います。その青白いヒカリは自然の素晴らしさを教えてくれる宝石です。

（文 / 自然遊びプロジェクトチーム　丸山 陽平）

地球のなかま

どんな生きものにとっても、受難の時代と言える、今。
みんなに愛されながらも、悲しい運命を背負っているのが、ジュゴンではないでしょうか。
環境の悪化、そして米軍基地の問題。
ジュゴンの悩みは、私たち人間の悩みでもあります。

第30回　ジュゴン――悲しい運命（さだめ）の人魚

文／ ニュースレター編集部　千葉 有紀子

●鳥羽水族館のセレナ（人魚）

人魚のモデルとも言われているジュゴンは、海牛目に属する草食性の哺乳類。赤道をはさんだインド洋と太平洋の熱帯および亜熱帯の温かい浅い海に住んでいます。眠っているときでも、4～6分に1回、浮かび上がって呼吸します。成長すると体長約2.5m、体重約300kg。人間に比べると、随分ずんぐりむっくりしています（失礼！）が、前肢はまるで手のような働きをします。確かに泳ぎを見ていても、人間に近い気がしてしまいます。

写真提供：鳥羽水族館

日本では水族館でジュゴンを見ることができます。これはとても珍しいことなのです。おとなしい性質のジュゴンですが、神経質で音や光に敏感なため飼育は非常に難しく、鳥羽水族館では世界で唯一、ジュゴンをペアで飼育展示しています。これだけ長期間飼育できたところは、世界中でもここしかありません。餌としては、浅い砂地の海に生える何種類かの海草が知られています。鳥羽水族館では、5～7日に一回、韓国から海草のアマモを空輸しています。おそらく、この餌代、日本一、いえ世界一高いのではないかと思います。ここでは現在、雄のじゅんいちと雌のセレナが仲良く暮らしています。セレナはフィリピンのアキノ大統領からプレゼントされたもので、タガログ語で人魚を意味します。セレナはアオウミガメのカメ吉ととても仲がよく、一緒に遊んだりして、いつも楽しそう。ずっと眺めていたいその姿、じゅんいちは31歳、セレナは21歳。それぞれ、257cm・308kg（1999年測定）、260cm・379kg（2001年測定）と順調に育ち、二世の誕生が期待されています。ジュゴンの寿命は約60～80歳、そんなところも人間に似ていますね。

取材協力：鳥羽水族館

●ジュゴンの見える丘

シンガーソングライターのCocco（コッコ）の歌う「ジュゴンの見える丘」は、沖縄で二頭のジュゴンがよりそって泳ぐ姿が発見されたというニュースを聞いて作られました。その映像は最初は親子かと思われていましたが、画像を分析する内に、オスとメスのペアではないかということになりました。何度か調査が繰り返されましたが、結局、身近でみることはできませんでした。それでも、沖縄の海にジュゴンがいることがわかって、ほっと胸をなで下ろしました。しかし、これから深刻な事態が起こりつつあります。

ジュゴンの分布の北限は日本の南西諸島海域（沖縄本島付近）です。その数はわずかに50頭以下とも言われています。まさに絶滅寸前です。最近姿を見ない、という声もあり調査が行われたのです。昨年ようやく環境省がジュゴンを最も絶滅の危険性が高いグループ「絶滅危惧1A類」に指定しました。ところが、日本に残された最後のジュゴンの生息地、沖縄県名護市沖の辺野古（へのこ）・大浦湾。ここに普天間米軍飛行場の代替施設を建設する計画が進められています。現地の住民を始め、さまざまな団体が反対運動に動いていますが、なかなか完全に阻止できるという状況にはならず、常に予断を許さない状況です。

●ジュゴンも人間も幸せな海に

もともとジュゴンがここまで数を減らしたのは、乱獲、刺し網や定置網など漁具による溺死事故、開発による生息地や食物となる海草の生えた藻場の減少などが原因と考えられます。

ジュゴンの仲間であるステラーカイギュウは、9mもの大きさの堂々たる生きものでしたが、1741年の発見からわずか27年で絶滅してしまいました。原因は肉を取るための乱獲でした。辺見庸の『もの食う人びと』に、ジュゴンの肉を食べようとして外国に出かけていくくだりがあります。作者は結局、ジュゴンの肉には巡り会わずに帰国しますが、後から連絡が入ります。「肉が手に入った」と。

ステラーカイギュウの教訓から、ジュゴンは国際保護動物に指定されています。それでも、密猟されたり、網や船との接触事故など、苦労が絶えません。もともと人魚に似ているところから、その肉を食べれば不老不死と思われていたジュゴン。沖縄でも、神聖な生きものとして敬いながら、食べていた時期もありました。

その沖縄は第二次世界大戦の際の激戦区です。昨年から公開されている「ひめゆり」という映画があります。戦争の末期に、ひめゆり学徒隊として看護活動にあたった彼女達へのインタビューで構成されている、静かな映画です。終戦の1945年から63年。最古老のジュゴンは戦争経験者かもしれない、などと考えてしまいました。人間の勝手で、住みかを奪われ、生命までもおびやかされる。沖縄の美しい海は何も語ってはきませんが、人間もジュゴンやその他の生きものたちも、その海で楽しく平和にいつまでも暮らしたい、そう切に願います。

○参考文献……浅野 四郎著『ジュゴン』しぜんキンダーブック フレーベル館 1993年、辺見 庸著『もの食う人びと』角川文庫 1997年

次回は「琵琶湖固有種」です。

連載

青き星 碧い風

第二十回　現在の「豊かさ」が生んだ環境問題（2）

文／環境市民代表理事 枚本 育生

20世紀後半、より多くのものを所有したいという欲求は、より早く消費したいという欲求へと変化した。科学技術の発展と経済活動への結びつきが、それを可能にした。日本の場合、それが特に顕著で、たとえばバブル期には自動車を3年程度で買い替えていた。現在でも、例えば袖も通さないのに次から次へと洋服を買い続けている人も（またできることならそのようにしたいと願っている人が）多くいる。買い物症候群にかかって、ローンによる自己破産が当たり前のようになっている。

このような人は、良いモノを持つ、多く持つことに幸福を感じるのではなくて、また持ったモノへの愛着心さえ、手に入れた瞬間に消えていき、より早くより新しいものを次から次へと消費していく、その瞬間にだけ幸福を感じるようになってしまった。まさに消費こそ豊かさ、消費こそ幸福である。私たちいわゆる先進国に住む人は多かれ少なかれ、このような傾向があるのではなかろうか。

環境問題の解決には大量生産、大量消費というライフスタイルとそれを支える経済システムを変えなければならないとされる。その変革は、このような「豊かさ」「幸福」の在り方そのものを生み出す社会のパラダイムを変えることなしではありえない。「人より多く消費することが豊かさ」、それはモノだけではなく人間関係にまで広がり、多くのまた深刻な人間問題、社会問題を生み出している。

深いつきあいより、浅いつきあいの友人を多く持つ、そしてまた新しい友人を持ち、少しでも傷つきそうになったら逃げ出して、また新しい友人を持つ、そんな人が急増している。深い人間関係は苦手というより、深い関係を築くことができる人間としての成長がこの社会では難しくなっている。ただ人間関係がないのは寂しいので、互いに自分が傷つかないよう距離を保って接しようとする。カラオケは、いっしょに行くけれど、実際にはみんなバラバラ。他人の歌には一応拍手はするけど、本当は関心がない、次に自分が何を歌うかを考えている。携帯電話もこのような希薄な人間関係と不安な心理に見事に適合した道具になっている。人間は当然ひとりでは生きていけない、誰かと関係を持たなければならないが、傷つきたくないので距離を保って「つながる」ことができる携帯電話が便利な道具として使われているのではないだろうか。

恋愛関係でさえ、本当に心から深いつきあいをするのではなく、傷つくことを恐れて、心では浅い関係を繰り返す。つまり恋愛も消費の対象になっている人が多く見受けられる。さすがに、恋愛においては嫉妬心があるので盛んに携帯で相手の行動を確認し、相手の携帯電話の通話先をチェックするというような行動をとる人が増えている、これは愛情が深いのではなく、むしろ人を信じることができない、競争社会を反映したものと考えるべきであろう。

「使い捨て時代を考える会」を創設した槌田劭氏は、「使い捨て社会は人間そのものを使い捨てにする」と言われた。これこそ、消費社会の愚かさを見事に表現した言葉であろう。最も象徴的なのは老人で、日本では社会の邪魔者扱いしている。効率を優先する社会は、多くの経験をしてきた高齢者たちを社会から締め出し、不要なものと見なす。

豊かさを金銭で量る社会、競争を基本とする社会は、人間も自分自身をより高い機能をもった商品として見せる必要を生み出した。大学は、真理を追及する場でもなく、自己の本質的な能力を高める場でもなく、この社会が求めているいい機能を持った、いい商品としての人間を出していく機関になった。そのような人間とは、実務遂行能力を持った者であり、人生の知恵や人間性は必要とされない。実務能力さえあれば、精神的な発達は考慮外で、自らが実行に携わっていることが、この社会の将来にとって、いいかどうか判断するのではなく、ただ遂行することに長けた人たちがエリートと呼ばれている。このことが日本の社会的な力が、世界の中で衰退している大きな原因ではないだろうか。

このような競争を強い、人間を使い捨て化し、商品化する社会はまた、「キレる」人間を生み出し、親による子殺し、子による親殺し、殺すのはだれでもよかったという殺人事件が頻発するようになった。

環境問題の根本的原因は、これら人間社会をも大きく歪ませている「豊かさ」の在り方そのものである。より早くより多く消費することを幸福とする社会の在り方そのものを変えることなく、コマメな行動や科学技術の進展に頼って環境問題を解決できると考えるのは表層的であり、幻想にすぎない。

この連載の奇数回では、世界や日本の豊かな自然を描き、偶数回では日本社会やNGOへの提案を載せていく予定です。

みどりのかわらばん

読者×読者、読者×環境市民をつなぐコーナーです。
ご意見・ご感想など、お待ちしています。

編集／ニュースレター編集部　風岡 宗人

みどりの特派員便り

全国で活躍する環境市民の会員さんが、「みどりの特派員」として地域の活動や思いを紹介します。
この記事がきっかけとなり、新たな環境市民ネットワークの創出ができればいいな。

谷川 毅さん（京都市）　── 環境パートナーシップで国と地域をかろやかに結びたい ──

前職は学童保育で子どもたちと体当たりで放課後を過ごしていました。現在は一転、環境省とNGOの協働運営事業体「近畿環境パートナーシップオフィス（きんき環境館）」に勤務しています。各地の環境情報の収集・発信や、環境をテーマにした集いの場を設け、地域の方々が協力して環境活動をするきっかけづくりなど、近畿全体を対象に取り組んでいます。

近年は国連が進めるESD（持続可能な開発のための教育）を広める取り組みもしています。神戸で３月に実施した「第１回ESDフォーラム」では、環境、人権、福祉、ジェンダー、多文化共生など、とにかく多様な方々に「ESDを一言で表すなら?」と聞くと、三者三様の答えが返ってきました。理由を聞くと、会場から「なるほど〜」「私、この方と同じだ」と声が上がる。ESDを頭だけで理解しなくていい、共感を大切にする、自分は環境問題とは関係ないと思っても実は関わっている……。これからも軽いフットワークで、多くの方々と顔を合わせながら、こんな新発見の連鎖を大切につむぎ合わせていきたいと思います。

「ESD」を一言で、の問いに思いおもいに表現する参加者

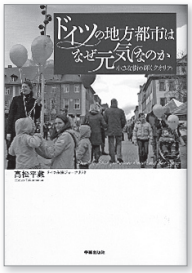
●きんき環境館のウェブサイト
http://www.kankyokan.jp

インフォ＠エコ

環境に関するオススメの本、映画、音楽などをご紹介します。

オススメ！ **『ドイツの地方都市はなぜ元気なのか 小さな街の輝くクオリティ』**

高松 平藏著　2008年５月　学芸出版社（1890円＋税）



私は４年前にドイツの地方都市フライブルクとハイデルベルクへ行ったことがある。平日なのに日曜日かと思うほど教会を中心とした街中は賑わっていた。この本の著者、高松平藏さんは、ドイツの南東部バイエルン州の地方都市エアランゲンに在住、ジャーナリストの目線で「ドイツの地方都市はなぜ元気なのか」を説いてくれる。都市のあるべき姿を「循環系」と「市民社会」という二つのキーワードで導きだす。地方自治体による企業誘致の戦略、優秀な人材の確保、文化力の高さが好循環をもたらす。職住近接により住民＝市民の地元への愛着は強い。さらに「フェライン」と呼ばれる、日本でいうとNPO法人のような組織がドイツ全土で約59,400ほど、人口10万のエアランゲンで550もあるという。このフェラインが市民社会の活力となっているようだ。ドイツ国内の地方自治体は約12,600。日本では平成の大合併で約1,800となった。大きいことはいいことなのか、この本からは活気を取り戻す施策、戦略について学ぶことばかりだ。特に行政職の方に読んでほしい一冊だ。

（ラジオチーム / 奥津 登代子）

みどりのわ　つながる・ひろげる

ニュースレターモニター、また読者の方からのご意見をご紹介します。

８月号のCSR特集は非常に興味深かったです。読んでいるうちに、社員も市民であり、CSRの根底には私たち消費者や市民がいて「主役は私たちなのか！」と気づかされました。今までCSRとは会社対地域というイメージがあり、会社が主体だと思っていたので意外な気がしました。CSRとグリーンコンシューマーには通ずるものがあって無関係ではないというのも、なるほどねぇ〜と新鮮でした。

また、CSR報告書を読むポイントを知り、思わず私が勤めている会社のサステナビリティレポートは大丈夫だっけと読み返しました（欲を言えばそのポイントを私の就職活動中に知りたかった……）。

個人的な印象ですが、環境に携わる仕事がしたい就活生も多いので、一人でも多くの学生さんに読み方のコツをお伝えできたらいいですね。

（北野 麻里子さん / 東京都在住）

SKIPの！エコファイター劇場 vol.21

環境共育チームSKIPの環境プログラム「エコファイターショー」をモチーフとしています。

イラスト：かわみん

新会員の方々・寄付　7月12日から8月14日

新会員
奥 剛嘉　丸山 陽平
藤崎 壮滋

寄付
神田 寿則　堀 孝弘
長谷川 昌弘

（五十音順敬称略）
ありがとうございました！

新入会員インタビュー：

奥 剛嘉（おく・たけよし）**さん ／（京都府）7月17日入会**

接骨院に勤務しています。環境市民で少しでも多くのことを吸収し、それを院のお客様にお伝えできればと考えています。

（ご意見・ご感想宛先）

●メール・FAX・郵送でお送りください　【E-mail】newsletter@kankyoshimin.org　【FAX】075-211-3531
【郵 送】〒604-0932 京都市中京区寺町通二条下ル 呉波ビル3階　NPO法人環境市民 みどりのニュースレター編集部 宛

環境市民

かんきょうしみんぶんのいち

★環境市民の会員を紹介します

no.39

藤井 千穂さん

自然住宅研究会※1 で活躍されている藤井さん。自然素材にこだわった体にやさしい家作りを提案されています。最近ではニュースレター編集部の「住まいのエコ Q&A」コーナー作成のメンバーでもあります。

「自然素材で作られた家は時間が経てば経つほど風合いが出て、落ち着いた過ごしやすい空間になるんです」。

藤井さんが自然素材（木や土など自然からの恩恵そのままを住宅建材として加工したもの）を使った家作りに関心を持ったのは、今から 10 年ほど前。工務店にお勤めの頃、アトピーを患うお子さんを持つ友人に「化学物質が多く使われた新建材ではなく自然素材を使って家の増築をしてほしい」と依頼されたことがきっかけだったそうです。10 年前と言うと、新建材が全盛期の時代で、「シックハウス症候群」という病気も少し知られ始めた程度。途方にくれてしまった時、出会ったのが『健康な住まいを手に入れる本』（コモンズ）という書籍でした。「これだ！」と思った藤井さん。その著者の一人である足立和郎氏にさっそく連絡を取り、本からだけではわからなかったことをたくさん聞き出して情報収集をした結果、友人宅の増築は大成功。そこから藤井さんと自然住宅の関わりが始まります。

そもそも、住宅に関心を持ったのは一年間のニュージーランドでの経験から。ニュージーランドでは多くの人が家の増改築を自らの手で行うのだそう。工務店のような中間業者にすべて任せてしまう場合が多い日本と違い、自分で材料を仕入れて、コーディネートして、自分で作り変えていく。そのためニュージーランドの大工センターは本当に充実していて、藤井さんいわく「その魅力にはまってしまったの！」。さまざまな建材、注文通りの色を作ってくれるペンキ、材料を買ったら大工センター

で道具を借りて、自分の家を自分のスタイルに作り変えていく。そんなニュージーランドの人々の姿を見て「自分で自分の家を作る」ということに関心を持ち、日本に帰ってインテリアコーディネートについて勉強されたのだそうです。その後、前述の工務店に友人の紹介で勤めることになり、自然住宅との出会いにつながっていきます。

現在はインターネットでオーガニックコットンを扱うお仕事もなさっている藤井さん。自然住宅を作る仕事に関わって、建材や壁紙などは自然素材を使っているのにカーテンだけが化学処理を施されたもののままであることに疑問を感じ、以前少しだけ働いていたカーテンの会社での経験を活かして今のお仕事を始められたのだそうです。丈夫で、たいした手入れをしなくても長持ちするように、たくさんの化学薬品で加工されているカーテンは私たちの体に健康被害を及ぼします。藤井さんのお店で扱われるオーガニックコットンは、無農薬栽培で一切化学処理が行われていません。そのため、抵抗力の弱い赤ちゃんや、アトピーやアレルギーの方にも使っていただけるのだそうです。「体のことを思いやった自然住宅を建てるのならば、内装に使われるカーテンや家具のカバー、シーツまで自然素材を使った家にしてほしい」。そんな藤井さんの思いが感じられました。

「次にやってみたいことってどんなことですか？」とうかがうと、少し考えて「自分の家を開放して、サロンを開きたい」。というお答えが返ってきました。例えば、いつも家から出るごみは小さな袋一つ分くらいしかない藤井さん。「大きなごみ袋をえっちらおっちら運んでくる近所の方の姿はとても不思議」。どうしたらごみを減らせるのか、どうしたら自然に優しい暮らしができるのか。そんなことを老若男女、ご近所さんとお裁縫や料理などの手仕事をしながら気軽に話せる空間を作るのが夢なのだとか。自然素材が使われた居心地のいい部屋に、たくさんの人の笑い声が響く情景が目に浮かびます。

（インタビュー・写真 / 安江　晃子）

※1　自然住宅研究会：住まいと健康、住まいと地球環境、エコロジーな住まいづくりなどについて、共に考え、共に学び、そしてそこで得たものを情報発信している環境市民のプロジェクトチーム。

今月のありがとう！

目立たないところでも、お力を貸してくださった方々に、感謝をこめて―。

【ニュースレターの発送】
江藤 文香／岡本 成貴／山形 七日

【その他】
角出 貴彦

（五十音順敬称略）

編集部（五十音順）

有川 真理子　乾 孝史　浦上 英朗
風岡 宗人　久保 友美　駒 ゆき香
角出 貴彦　田麦 誠　千葉 有紀子
内藤 一樹　東 広之　藤岡 洋貴
安江 晃子
下司 智子（デザイン・レイアウト）

編集後記

1/ 環境市民でお話をうかがった藤井さんは本当にたくさんの経験をお持ちで、話が尽きることがなく、二人で二時間以上も話しこんでしまいました。字数の関係でうかがったことのすべてをお伝えすることはできないのが残念です。明るくて、バイタリティがあって、行動力がある。そんな素敵な女性でした。

（ニュースレター編集部 / 安江 晃子）

エコライフ、エコ活動をやっている方、これからやろうとしている方、必見

環境問題の「もうちょっと知りたい」に応えるハンドブック

環境情報が氾濫してる今、問題の本質を見極めたい方にぴったりです。

〈内容〉

1. 地球温暖化って、人間の活動がもたらしたものではないという説もあるけれど、ほんとなの？
2. 世界で水不足や砂漠化が進んでも、日本とは関係がない？
3. 原発は、地球温暖化防止の切り札なの？
4. これ以上、エネルギーの削減はできないの？
5. 自然エネルギーって、まだまだおもちゃのようなものでしょ？
6. ごみやエネルギーの削減は経済活動のマイナス？
7. リユースって、ほんとに環境によいの？
8. ペットボトルはリサイクルするより、燃やした方がいいの？
9. 再生紙より純パルプの方がエコロジーって、ほんと？
10. 日本って、環境先進国なの？

サイズ　A5 版 /94 ページ

価　格

□環境市民会員の場合

1 部：500 円（送料別途 70 円）

□非会員の場合

・送料込み（税込み）

1 部 :700 円　2 部 :1,300 円　3 部：1,900 円

・送料なしの価格（税込み）

1 部 :630 円

申込み　お名前、ご住所、電話番号、メールアドレスを明記の上、電話か FAX、メールでお申し込みください。振込は銀行口座か郵便局になります。

環境市民に入会しよう！

環境市民は、多くのボランティアと会員の皆さんの参加によって支えられています。
「持続可能で豊かな社会づくり」のために、ぜひ会員になって環境市民の活動を応援してください！

会員特典

□月刊会報誌「みどりのニュースレター」をお届けいたします。
□行事などの参加費を割引させていただきます。
□会員専用ブログ「ボランティア広場」への参加ができます。
□環境に関する様々な情報を得たり、また質問や相談ができます。

会費の振込み方法

（1）郵便振替振込用紙に、住所・氏名・電話番号・会員の種類・送金内容事項をご記入の上、「年会費＋入会金」をご入金ください。
（※シニア・学生・助成・特別助成会員は入会金不要）

（2）ご入金を確認後、最新のニュースレターと会員バッジ、入会記念としてポストカードをお届けします。

会費

種別	年会費	入会金
個人会員	4,000円	1,000円
ペア会員	6,000円	2,000円
シニア・学生会員	3,000円	―
ファミリー会員	8,000円	2,000円
助成会員	10,000円	―
特別助成会員	50,000円	―
終身会員	一括　80,000 円	
営利法人会員 *	1口 50,000 円	50,000円
非営利法人会員 *	1口 10,000 円	2,000円

*年会費は一口以上

～あなたのご支援が環境市民を支えます～

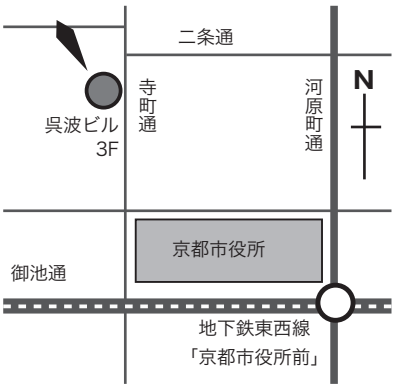
♥ **寄付をする…**　住所・氏名・電話番号・寄付金額をご明記の上、下記の振込先へお振り込みください。

会費・寄付のお振込み先　【郵便振替】口座番号：01020-7-76578　加入者名：環境市民

（発行）**特定非営利活動法人　環境市民**　（代表）枚本 育生　（発行人）堀 孝弘
【TEL】 075-211-3521【IP 電話】 050-3581-7492【FAX】 075-211-3531
【E-mail】 life@kankyoshimin.org 【URL】 http://www.kankyoshimin.org
〒 604-0932 京都市中京区寺町通二条下ル呉波ビル 3 階 （月から金　午前 10:00 から午後 6:00）

環境市民 東海事務所
【TEL&FAX】 052-521-0095 【IP 電話】050-3604-6182
【E-mail】 tokai@kankyoshimin.org 【URL】 http://www.kankyoshimin.org /tokai/
〒 451-0062　名古屋市西区花の木 1-12-12　AOI ビル 4 階

環境市民 滋賀事務所
【TEL】 077-522-5837【E-mail】 cefshiga@kankyoshimin.org
〒 520-0046　大津市長等 2 丁目 9-12　竺 文彦気付



本誌の無断複写・複製・転載を禁じます。

「環境市民」登録商標 第4809505号

この印刷物は風力発電による自然エネルギーを使用して大豆油インキで印刷しました。
印刷：（有）紀書房

本誌はメーカー側が古紙100%とする紙を使っていますが信頼性の確認がとれていないため、古紙配合率100%を示すR100マークははずしています。

環境市民
Citizens Environmental Foundation
21 世紀
地球を、地域を、生活を、
持続可能な豊かさに